

長崎大学(学部入学定員:1,629人)

[取組学部・研究科等:○経済学部(415人)、経済学研究科(15人)、国際健康開発研究科(10人)]

【構想の目的・育成するグローバル人材像】

長崎大学では、多様な文化的背景や価値観を有する当事者間でしばしば利害が対立する地球規模課題の解決に挑戦する「志」、すなわちGSR(Global Social Responsibility)マインドを持ち、経済学・経営学・会計学の基盤的知識を活用して、当事者間で合意可能な解決策を導出し、それを実行しうるグローバル・ビジネス人材を育成します。

【構想の概要】

この構想では、経済学部国際ビジネスコースを新設し、以下の教育プログラムを実施します。(1)地球規模課題の現場で活躍する学外専門家の講義や海外短期研修を通じて、GSRマインドの基盤をなす使命感・意欲を喚起します。(2)英語科目の拡充や留学生とのグループワークを通じて、異文化理解に基づくコミュニケーション能力を向上させます。(3)学術交流協定締結校の専門課程への留学、海外インターンシップを通じて、異文化環境における実践的課題解決力を育成します。

■ グローバル人材として求められる能力の育成

○ GSR課題俯瞰力

貧困や経済格差、環境問題など地球規模課題の解決に取り組む意欲や使命感、幅広い教養に基づくグローバルな視野を養うために、地球規模課題の現場に身を置く学外専門家による「GSR概論」の講義や、途上国の現場における短期海外研修を実施します。

○ 多文化連携力

多様な文化や価値観を理解し、異文化理解に基づく信頼関係を構築しうる能力を涵養するために、「留学生との共修ゼミ」や、「English for Economics Majors」等を開講します。また、異文化環境で生き抜く力を涵養するために海外大学への長期留学を実施します。

○ GSR課題解決力

基盤的知識を用いた地球規模課題の実践的解決力を養うために、英語による専門講義(3科目)および専門分野の国際標準の英文テキストを用いた演習(4科目)、2年次から一貫した複数指導体制による英語による卒業研究や、海外企業でのインターンシップを実施します。

■ 語学力を向上させるための入学時から卒業時までの一体的な取組

○ 効果的な語学教育及び教育体制

ネイティブの英語教員を新規に雇用して「English for Economics Majors」を開講、専門分野のリーディング、ライティング、プレゼンテーション、ディスカッション能力を涵養します。また、専門科目を英語で講義可能な教員を新規に雇用し、専門領域の英文読解力、英文作成力を育成するとともに問題演習を通じ、留学中の専門科目の単位取得のための基礎力を育成します。

○ 入試における中等教育段階までの外国語力・留学経験等の適切な評価

一般入試では、従来通り英語の試験を必修とします。推薦入試では、英語を含む小論文試験を継続するほか、海外留学・滞在経験を学外専門家を含めて評価する体制を整備します。

■ 日本人学生の留学を促進するための環境整備

○ 動機付けや留学を促進するための取組

学外専門家による「GSR概論」の講義の後、実際の現場を訪れ、身を以て地球規模課題を経験することで、GSR課題解決のための海外留学の重要性を初年時に涵養し、留学の動機付けを行います。また、1年以上の海外留学経験を有するコーディネーターを新規に雇用し、海外留学に向けた支援体制を整備します。

○ 留学中から帰国後にわたるサポート体制

コーディネーターを中心に定期的に派遣先大学を訪問し、留学中の学習・生活面、ならびに帰国後の就職支援に向けたサポートを行うほか、外部専門機関と連携して海外での安全管理体制を整備します。

■ 教育課程の国際通用性の向上

○ 教育課程の国際通用性の向上のための取組

カリフォルニア州立大学(米国)、西南財経大学(中国)、中央大学校(韓国)などの学術交流協定校や日本を代表するグローバル企業で構成するビジネス人材教育コンソーシアムの外部評価を受け、プログラムの国際通用性を担保します。また、複数学位プログラム(修士3年間)を含む大学院進学プログラム(修士2年間、早期卒業制度を利用)を実施します。

○ 戦略的な国内外への教育情報の発信

学外に対しては公開シンポジウムを隔年開催し、教育成果を公表するほか、ホームページ等を利用した高校等に向けた広報活動を強化します。学内に対しては国際教育リエゾン機構を本部に設置し、情報共有体制を強化します。

○ 事務体制のグローバル化

英語力の高い事務職員を雇用し、グローバル人材育成の実施にあたる事務体制を整備します。

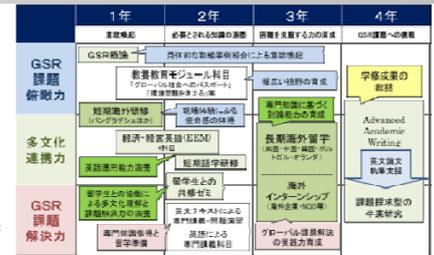
■ 教員のグローバル教育力の向上

○ 教育体制のグローバル化

外国人教員を国際教育リエゾン機構に一括して所属させ、全学的に教育効果を波及させうる体制を構築します。さらに、ビジネス人材教育コンソーシアムから講師を招聘し、グローバル人材育成に関わる先進事例の紹介、アクティブ・ラーニング等について研修を実施し、教員ならびに教育体制のグローバル化を促進します。

○ グローバル教育力向上のための取組

学術交流協定校へ教員を短期派遣し、英語による専門教育や先進的教育方法修得のための短期集中研修制度を創設します。



〈教育カリキュラムの概要〉



〈 Bangladeshでの短期海外研修〉

卒業・修了時に学生が修得すべき具体的能力

○GSR課題俯瞰力: GSR概論、短期海外研修を含めて、グローバル人材育成関連科目を12単位以上修得していること
 ○多文化連携力: 留学前に「経済・経営英語(English for Economics Majors)科目群」4科目及び「留学生との共修ゼミ」を修得し、TOEICスコア650点程度に到達した上で、単位取得を伴う海外留学経験を有すること
 ○GSR課題解決力: 国際標準の英文テキストに基づく専門教育科目及び演習(4科目)、英語による専門講義(2科目)を修得した上で、GSR関連テーマの卒業論文を英語で作成し、合格すること

本構想において実現する達成目標

| 全学 | | 2011 | 2012 | 2013 | 2014 | 2015 | 2016 | |
|-------------------|----------------|-----------|------|--------|--------|--------|---------|------|
| 外国語カスタンダードを満たす学生数 | | | | 10人 | 10人 | 20人 | 40人 | |
| うち海外留学未経験者数 (A) | | | | 5人 | 5人 | 8人 | 10人 | |
| 海外留学経験者数 (B) | | 24人 | 40人 | 60人 | 70人 | 80人 | 85人 | |
| 卒業[予定]者数 (C) | | 425人 | 430人 | 430人 | 430人 | 430人 | 430人 | |
| 比率 ((A+B)/C) | | | | 15.1% | 17.4% | 20.5% | 22.1% | |
| 経済学部 | 卒業時の外国語カスタンダード | TOEIC 800 | | 10人(5) | 10人(5) | 20人(8) | 40人(10) | |
| | 海外留学経験者数 | 24人 | 40人 | 60人 | 70人 | 80人 | 85人 | |
| | 3カ月未満 | 22人 | 35人 | 55人 | 65人 | 75人 | 75人 | |
| | | 3カ月～1年 | 2人 | 5人 | 5人 | 5人 | 5人 | 10人 |
| | | 1年超 | 0人 | 0人 | 0人 | 0人 | 0人 | 0人 |
| | 卒業[予定]者数 | | 425人 | 430人 | 430人 | 430人 | 430人 | 430人 |
| 経済学研究科 | 卒業時の外国語カスタンダード | TOEIC 830 | | 2人(0) | 2人(0) | 3人(1) | 3人(1) | |
| | 海外留学経験者数 | 3人 | 3人 | 3人 | 3人 | 4人 | 4人 | |
| | 3カ月未満 | 3人 | 3人 | 3人 | 3人 | 3人 | 3人 | |
| | | 3カ月～1年 | 0人 | 0人 | 0人 | 0人 | 1人 | 1人 |
| | | 1年超 | 0人 | 0人 | 0人 | 0人 | 0人 | 0人 |
| | 卒業[予定]者数 | | 15人 | 8人 | 15人 | 15人 | 15人 | 15人 |
| 国際健康開発研究科 | 卒業時の外国語カスタンダード | TOEIC 850 | | 3人(0) | 3人(0) | 5人(0) | 6人(0) | |
| | 海外留学経験者数 | 13人 | 12人 | 10人 | 10人 | 10人 | 10人 | |
| | 3カ月未満 | 0人 | 0人 | 0人 | 0人 | 0人 | 0人 | |
| | | 3カ月～1年 | 13人 | 12人 | 10人 | 10人 | 10人 | 10人 |
| | | 1年超 | 0人 | 0人 | 0人 | 0人 | 0人 | 0人 |
| | 卒業[予定]者数 | | 13人 | 12人 | 10人 | 10人 | 10人 | 10人 |

※1)「外国語カスタンダードを満たす学生数」の学部ごとの記入欄の()内は、外国語カスタンダードを満たす学生数のうち「単位取得を伴う海外留学未経験」の学生数を示す。

※2)上記の「海外留学経験者数」は、いずれも単位取得を伴う海外留学経験者数であり、単位取得を伴わない海外留学経験者は含まない。